

# 環境負荷物質削減の取り組み

## 基本的な考え方

工場からの流出、放出を発端とする水質汚濁、大気汚染や土壌汚染などは周辺の地域社会にとって脅威になります。ミネベアグループでは、地域との共存が事業活動において不可欠であるとの考えから、環境負荷物質の削減に取り組んでいます。

## 2011年度の取り組み結果

ミネベアグループでは、各国、各地域の環境法令を遵守するために、法令基準を上回る自主基準を設け、日々の監視を行っています。2011年度は環境法令や自主基準に違反するような事象はありませんでした。さらに、工場からの漏洩や異臭、騒音、振動などの異常がないか確認する環境パトロールをすべての工場で実施し、周辺地域へ与える影響についても監視しています。

また、2011年度は当社グループで使用する化学物質使用量を効率的に管理するために、新たに使用する化学物質についてデータベースを構築しました。データベースは2012年度に運用開始する予定です。

## 事業所における取り組み

### ●工場排水の浄化

ミネベアグループでは、排水を河川に放流する際、工場保有の排水処理設備で使用済みの廃水を基準値内まで浄化しています。また、各国および所在地域の法令に従って、排水中のpH<sup>\*1</sup>（ペーハー）、COD<sup>\*2</sup>（化学的酸素要求量）、BOD<sup>\*3</sup>（生物化学的酸素要求量）、SS<sup>\*4</sup>（懸濁物質）、ノルマルヘキサン抽出物質<sup>\*5</sup>（油分）などを定期的に測定し、自主的に工場排水の監視を行っています。

2011年度、各工場の監視項目に異常は見られませんでした。また、これらに関する苦情も寄せられていません。

※1 pH（ペーハー）

酸性かアルカリ性を示す尺度。pH7が中性。7より小さいほど酸性が強くなり、7より大きいほどアルカリ性が強い。

※2 COD（化学的酸素要求量）

水中の有機物（汚れ）を酸化剤によって酸化するのに消費される酸素量。BOD測定と比べ短時間で測定できるが、信頼性は劣る。CODは一般的に海、湖沼への排水管理に用いられる。

※3 BOD（生物化学的酸素要求量）

水中の有機物（汚れ）を微生物が分解するときに必要とする酸素量。BODが大きければ水質は悪い。測定に数日を要する。BODは一般的に河川への排水監視に用いられる。

※4 SS（懸濁物質）

水中に浮遊している物質の量。数値が大きければ水質汚濁が著しい。

※5 ノルマルヘキサン抽出物質

水に含まれる揮発性の油や洗剤などを、ノルマルヘキサンという薬品で抽出した物質。当報告書では鉱油量を表す。

### ●廃棄物、リサイクル処分場の定期視察（日本、タイ、中国、他）

各工場、事業所から排出される廃棄物には、それぞれの工場、事業所内で再使用、再利用が難しいものがあります。こうした廃棄物は廃棄物処理業者に委託し、処分しています。

ミネベアグループでは、信頼できる処理業者を選定し処分を委託するとともに、定期的に処分場に赴き、その処理、管理状態などを視察しています。廃棄物の処理工程において、土壌、水質、大気などへの環境汚染を引き起こさないよう、今後も処理業者と協力し、取り組んでいきます。



浜松工場従業員による処分場視察の様子

### ●一関工場の土壌浄化完了

ミネベアグループでは、かつてVOC（揮発性有機化合物）の塩素系有機溶剤により、土壌や地下水の汚染を起こした事業所があります。汚染のあった工場や跡地では、当社グループの責任において浄化作業を進めています。

一関工場でも同様の汚染が確認されていましたが、これまで自主的に浄化作業に取り組み、2011年10月に浄化を完了し、一関保健所および一関市に対して浄化完了報告を行いました。



土壌浄化を完了した一関工場

## 今後の目標・課題

ミネベアグループは、引き続き国内外の環境法令を遵守した事業活動を行うとともに、過去に発生させた環境汚染について、浄化作業を進めていきます。